

2023 年度 九州本部倫理 CPD ～九州・中国共同倫理イベント～

『若手とともに考える技術者倫理』

兼 2023 年度第 3 回定例会

【議事録】

開催日：2023 年 11 月 25 日（土） 13:00～17:00

場 所：会場参加（福岡商工会議所 407,408 会議室）および WEB（Microsoft Teams）

参加者：会場 28 名 WEB 34 名

（1）開講宣言及び開会挨拶（13：00）

- 開講宣言：日本技術士会 九州本部 倫理委員会 委員長 永岩研一 氏

九州本部の倫理委員会は、2016 年にスタートし、情報発信型の委員会として発展していく方針であり、今回のイベントのような公開型の CPD を開催する運びとなった。開催にあたり協力・支援いただいた中国本部倫理委員会及び統括本部倫理委員会に感謝を申し上げる。



- 開会挨拶：日本技術士会 九州本部 本部長 佐竹芳郎 氏

九州本部の倫理委員会は、委員が九州の各県に在籍している 23 名の委員で活動を精力的に行ってもらっている。今年度から情報発信型のイベント（技術者倫理 CPD 行事の主催）を通じて、若手の教育にも力を入れていきたいと考えている。



（2）【B-7】基調講演及び質疑応答（13：10～14：10）

【テーマ】

『2023 年版技術士倫理綱領～改訂経緯とともに～』

【演題】

技術士倫理綱領の改定と技術者倫理事例紹介 講演者：統括本部倫理委員会 委員長 塩原亮一 氏

【講演概要】

冒頭、「倫理創作事例で考える」として、組織ぐるみのデータ改ざん事例が紹介され、5 分間各自で考えた後、意見交換が行われた。その際、製造部門の担当者の立場だけでなく、経営者、倫理部門統括者の立場で考えることも必要ではないかと講師からアドバイスがあった。

講師の総括として、倫理は、○や×のような二項対立では片付けられない。ギリギリの判断の中で、最良の結果を導き出すことではないだろうか。自分の業務に近い状況を想定して考え続けるような訓練を行うようにしてほしい。



その後、技術士倫理綱領の改訂について経緯や主なポイントの説明があり、質疑では「事例集」における固有な情報の取り扱い、技術者倫理教育者相互の情報交換の場の設置、労働法令遵守と仕事の質の確保など質問があり、意見が交わされた。

（3）【B-7】意見発表（14：10～15：10）

【テーマ】

『私の技術者倫理～若手技術者に向けて～』

【演題①】

つまずきながら倫理を学ぶ～技術者倫理教育の難しさ～ 講演者：中国本部倫理委員会 川本明人 氏
【講演概要】

はじめに（デジタル社会とは何か）として、Society5.0、VUCA、不確実性、リスク社会、リスク社会の社会問題（SDGs）、VUCA時代の社会問題から、科学・技術と社会の親和性について説明が行われた。

続いて、技術者が関与した社会問題 地道な活動しかない。倫理へのとびらとして、基底をなす2冊の本「大学講義技術者の倫理入門第5版」「東大教授が挑むAIに「善悪の判断」を教える方法」が紹介された。

「モラルの延長線上に技術者倫理がある」という意見から、モラルと倫理の関係、モラルの真の姿、モラルの基本構造、モラル意識の分類など、モラルについて説明がなされた。その後、技術者倫理教育について、講師のシラバスの内容、倫理の変遷、工学倫理、倫理問題解決の考え方、リスク学の考え方を応用した方法などについて、倫理を学ぶ指針となる考え方が紹介された。



【演題②】

私の技術者倫理～若手技術者に向けて～ 講演者：九州本部倫理委員会 佐藤光雄 氏

【講演概要】

九州本部倫理委員会定例会において行われた研究発表「新倫理綱領についての意見交換（有能性の重視）中田成幸氏・技術士（機械部門）」を引用し、講師が考察を加え、技術士のミッションを達成するための有能性の重視に対する考えが発表された。



科学技術の向上と国民経済の発展という技術士のミッションを達成するためには、根幹・基盤的な素養と成長・創造的な素養の両方を磨く必要がある。倫理綱領の力点は、根幹・基盤的な素養に置かれており、成長・創造的な素養は別の意識的な取組が必要とし、チャレンジ精神を実行すること、目的志向が未来を拓き、イノベーションを起こすことが重要であるとした。

賢人の智に学ぶとして、失敗の科学（マシューサイド）、相田みつおの言葉、テクノロジストの条件（P.F.ドラッカー）、RIO+20ウルグアイ大統領のスピーチ、7つの習慣（スティーブン・R.コヴィー）、超バカの壁（養老孟司）が紹介された。これらの智を参考に、チャレンジ精神の実行や目的志向／未来志向／イノベーション志向が重要であるとの意見が出された。

（4）【B-7】ディスカッションプレゼンワーク（15：20～16：50）

【テーマ】

『技術者倫理に関する若手ディスカッションワーク』

【登壇】

- ・コーディネーター：河本理之 氏
- ・オブザーバー：岩尾雄四郎 氏
- ・ディスカッションメンバー：山田暁通 氏、岩見裕子 氏、諸藤明子 氏、川本明人 氏、小林強志 氏



【内容】

本企画の意図は、設問の内容の是非を問うものではないこと、受験指導ではないことを明確に示した上で、技術士第一次試験の適性科目における技術者倫理を問う設問2題を題材に以下のディスカッションが行われた。

【課題1】：平成29年Ⅱ-7 技術士第1次試験 適正科目

公共性の高い施設や設備の建設における新技術・新工法を採用する場合において、開発担当技術者、現場責任者、社外の技術評価機関や発注者、関連団体などの立場で判断・行動した創作事例である。

ディスカッションメンバーや参加者（会場・WEB）から選択肢ごとに正誤とその理由について意見が出された。

【課題2】：平成27年Ⅱ-6 技術士1次試験 適正科目

技術者が具体的な倫理判断を行う際の根拠となる究極的、抽象的な倫理原理に関する記述について適切さを問う設問である。

「最大多数の最大幸福の実現」や「有徳さ」、「功利主義原理」などのキーワードに対し、多面的に考える必要性や少数意見の取り扱いなど議論が活発に行われた。

【ディスカッションワーク総括】

予防倫理から志向倫理へと変わってきているのは、良いことだと思っている。2500年前の宗教ですでに言われていた言葉に、「人間は良い方向でも悪い方向にも行く。あなたたちは考える力をもっている。良いことを考える。良いことばを使う。良いことを行う。」ことが言われており、参考になるのではないか。自身の倫理観を自分の言葉で言えるようになることが重要。社会で起きていることを悪いことも良いことも含め自分の頭で考えていただきたい。

（オブザーバー）

（5）閉会挨拶（16：50）

- 閉会挨拶：日本技術士会 中国本部 倫理委員会 委員長 大丸謙二 氏

昨年より中国本部倫理委員会と九州本部倫理委員会が協力して共同イベントを開催している。

今後は、四国本部も含め共同活動させて頂けると良いと思う。



以上